

「月夜野ホタルの里」ホタルを守る会から ホタル観賞 アドバイス



みなかみ町環境課 ・ 月夜野ホタルを守る会

ホタルは、カブトムシと同じ甲虫の仲間です。ゲンジボタルとヘイケボタルの特徴を比較してみましょう。

区分	体の特徴	光る部分の特徴	とび方・光方の特徴	時期	主なエサ	産卵数	すむところ	ホタルの光るしくみ	ホタルが光るわけ
ゲンジボタル		おす めす 胸の中間に十字型のもよう 体調 10~20mm	~~~~ ピカ ~~~~ ピカ	6月中旬 ~ 7月中旬	カワニナ 殻高30mm	約 300~ 500個 程度	清流地	ホタルの光るしくみ 発光器 からだの中で「ルシフェリン」と「ルシフェラーゼ」というものと酸素をあわせて、光を出します。たいへんじょうずに光らせるのであつくりません。 	ホタルが光るのは、暗い中でオスとメスがお話をしているのです。
ヘイケボタル		おす めす 胸の胸中間に太くて黒いすじ 体調 7~10mm	~~~~ ピカ ~~~~ ピカ	6月下旬 ~ 7月下旬	モノアラカイ タニシ 殻高25mm	約 100~ 150個 程度	水田・湿地	ホタルの光るしくみ 発光器 からだの中で「ルシフェリン」と「ルシフェラーゼ」というものと酸素をあわせて、光を出します。たいへんじょうずに光らせるのであつくりません。 	ホタルが光るのは、暗い中でオスとメスがお話をしているのです。



カワニナ養殖施設（竹改戸地区）
カワニナ専用の飼育施設でホタル・カワニナをとおして生態・自然環境をテーマに「ホタル教室」を実施しています。

「ホタルの里」の飛翔風景

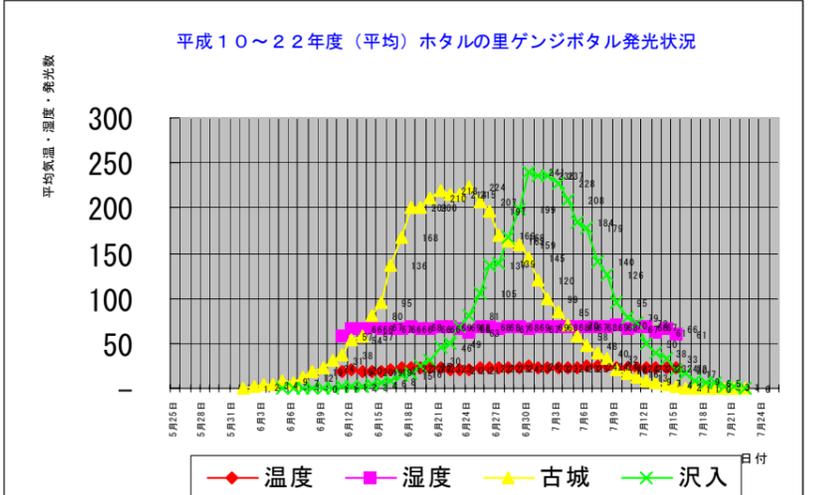


ゲンジボタルの乱舞とヘイケボタルのイルミネーション
ホタルと共生するってなに？ ゲンジ・ヘイケボタルは人里に棲む昆虫です。小川の管理（草刈）や稲作は、昔からホタルの棲みやすい環境を守ってきたこととなります。

「月夜野ホタルの里」は、「みなかみ町自然環境及び生物多様性を守り育てるための昆虫等の保護を推進する条例」の指定地域です。

「ホタルの里」の草刈・水路の清掃時期
ホタルの生態に合った滴期に行うことが大切です。
(ホタルを減らす原因になります。)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幼虫				上陸	さなぎ	成虫	ふ化	幼虫			
清掃滴期				最小限の清掃				清掃滴期			



ゲンジボタルのえさカワニナ

ゲンジボタルは、水中で生活する約9ヶ月間カワニナを70~100個食べて大きくなります。また、オタマジャクシの死骸を食べる幼虫が当町下牧で発見され、条件により他のエサも食べることがわかってきました。ホタルは消化液を吹きかけ、肉片を体外で消化させ吸収するという「体外消化」という珍しい食べ方をします。



カワニナは、水のきれいな河川や湖沼の砂礫底に好んで生息している巻貝です。水温に対する適応性は広く、普通の河川では0~27度くらいの所に生息可能で、一番適した温度は14~20度と言われています。エサは、自然状態では水草や石の表面に発生した水苔や川底に砂泥に含まれる藻類などを食べていますが、それらが十分でないときは水中に沈んだ落ち葉や木の実、草などの各有機物もよく食べています。時には、小動物の死骸なども食べることがあります。人為的にキャベツ、キュウリ、スイカ・メロンの皮などを与えるとよく食べ繁殖します。

ゲンジボタルの一生



成虫

6月中旬~7月上旬頃、ホタルは羽化して3日ぐらゐると地上に出てきます。メスは1.8cm前後、オスは1.5cmぐらゐの大きさです。成虫は水を飲む他は何も食べません。平均寿命は一週間ぐらゐです。

交尾

光によってうまくコミュニケーションがとれと結婚します。交尾が終わると早いものでは翌日から産卵を始めます。



産卵

一匹のメスは大きさ0.5mmぐらゐの卵を500個ほど産みます。



幼虫

幼虫は1.5mmぐらゐです。カワニナという巻貝を食べる6回脱皮し25~30mm位になります。



さなぎ

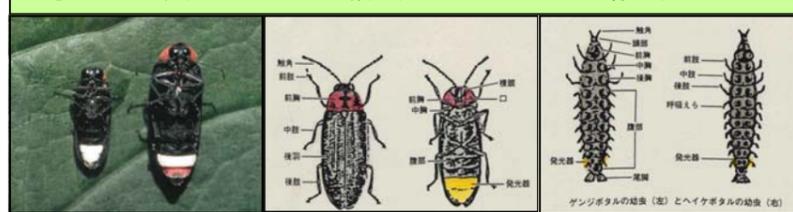
土の中にもぐった幼虫は、土まゆを作ってサナギになります。さなぎは30日~40日ぐらゐで羽化します。



上陸

4月下旬から5月上旬の雨上がりの夜上陸します。

からだのしくみ



白く見える節が発光器。2節あるのがオス、1節なのがメス。体格は、メスのほうが一回り大きい。

陸生のホタル(みなかみ町ではヒメボタル・クロマドボタルが生息しています。)

幼虫のときも陸上で生活し、ウスカワマイマイやキセル貝などを食べています。



ヒメボタル 体長6~9mm
国内のホタルとしては最小で、ゲンジやヘイケとは反対にオスのほうがメスより大きくなります。スマートで眼は半球状で大きく、くぼんでいますがメスは眼がやや小さく下翅が退化しています。一生を陸ですごし山中で飛ぶので、あまり見ることができません。

クロマドボタルの成虫と幼虫)



クロマドボタル 体長10mm
雑木林や田んぼの土手などに生息し、生息場所は広く、ゲンジ・ヘイケなどくらべると比較的注目されませんが身近な存在のホタルです。幼虫は、6月から秋ころまで発光していることから、「秋螢」・「うじボタル」などとも呼ばれています。

ホタル観賞と注意事項

●ホタルを観賞するときは満月の夜はさけましょう。明るくてあまり見られません。気温が20~25度で、雨上がりの湿度が高く、蒸し暑い夜に良く飛びます。

●ホタルをよく観賞できる時刻は、日によって多少異なりますが、夜の8時から9時頃までです。9時を過ぎると休んでしまい極端に数が少なくなります。

●ホタルを観賞するとき懐中電灯は使用しないでください。とくに最近の強力なライトの光を当てると、ホタルは視神経をおかされ死んでしまいます。

●同じようにカメラのフラッシュも同じです。フラッシュライトを使用してもホタルを撮影することは出来ません。特殊な技術が必要です。

●ホタルを観賞するときは、さわがず静かに観賞しましょう。ホタルが近づいて来ることもあるよ。

●迷惑となる路上駐車はやめましょう。駐車場は、町有駐車場・上組公民館・上毛高原駅ロータリー・矢瀬公園が無料で利用できます。その他民間の有料駐車場もあります。